

登大議第 494号
令和4年12月2日

大山町長 竹口大紀様

大山町議会議長	米本 隆記
総務常任委員長	門脇 輝明
教育民生常任委員長	岡田 聰
経済建設常任委員長	大杖 正彦

(公印省略)

大山町議会からの政策提言について

大山町議会では令和元年度から、各常任委員会において議会独自の事務事業評価に取り組んでいるところであります。

このたび、事務事業評価結果をとりまとめましたので、大山町議会基本条例第2条及び第11条第2項に基づき、政策提言として提出します。

なお、この提言に対する対応について、令和4年12月21日までに、回答のほどよろしく願います。

大山町議会事務事業評価 結果

委員会	事業名	担当課
総務常任委員会	地域自主組織育成支援事業	企画課
教育民生常任委員会	シルバー交付金	福祉介護課
	脳ドック検診	健康対策課
経済建設常任委員会	夕陽の丘神田運営事業	観光課
	道路維持管理事業	建設課

令和4年12月2日

大山町議会

評価事務事業名	地域自主組織育成支援事業
---------	--------------

委員会のまとめ

1. 委員会の項目別 評価点

評価項目	評価基準	点数	評価委員数	総点数	総人数	委員会平均点	
(1) 必要性	① きわめて高い	25	1	25	100	5	20
	② 高い	20	3	60			
	③ どちらかといえば高い	15	1	15			
	④ どちらかといえば低い	10		0			
	⑤ 低い	5		0			
	⑥ ない	0		0			
(2) 公共性	① きわめて高い	25		0	75	5	15
	② 高い	20	1	20			
	③ どちらかといえば高い	15	3	45			
	④ どちらかといえば低い	10	1	10			
	⑤ 低い	5		0			
	⑥ ない	0		0			
(3) 費用対効果	① きわめて高い	25	1	25	70	5	14
	② 高い	20		0			
	③ どちらかといえば高い	15	1	15			
	④ どちらかといえば低い	10	3	30			
	⑤ 低い	5		0			
	⑥ ない	0		0			
(4) 成果	① きわめて高い	25		0	80	5	16
	② 高い	20	2	40			
	③ どちらかといえば高い	15	2	30			
	④ どちらかといえば低い	10	1	10			
	⑤ 低い	5		0			
	⑥ ない	0		0			

合計 65

2. 委員会の項目別評価

評価項目	平均点	委員会評価コメント
(1) 必要性	20	少子高齢化、人口減少によって住民相互のふれあい希薄化が進み、集落維持が難しくなる中、行政の手が届かない地域課題を解決するために、住民の共助による支え合いは必要である。 そのためのベターな選択として地域自主組織に対する補助金の交付は妥当である。
(2) 公共性	15	地域によって抱える課題は異なるが、自主組織の目的や在り方が住民に理解されていない様に見える。なぜ必要かを周知することも必要ではないか。 社会状況や町民ニーズを受け止めているかは組織によって差があると感じるが、将来に向かって、住民福祉の増進を図るために集落を補完する受け皿を設けることは、町民のニーズにかなうものである。
(3) 費用対効果	14	自主組織は地域の課題解決が目的であることを忘れ、交流イベントの成功が主目的になっていないか振り返り、認識を確認する必要がある。 活動支援交付金の見直しが進められているが、地域の状況や抱える課題はそれぞれ異なっており、現状の1組織1年当たり一律300万円が適切であるとは言い難い。 費用対効果の評価は見る角度によってかなり異なる。
(4) 成果	16	どの組織も地域性を踏まえた様々な取り組みを進めているが、直面する地域課題が見えない地区もあり、活動の在り方に悩む地区と、そうでない地区が生まれている。 将来の地域活動を担う受け皿としての組織が町内の全域で設立され、多くの住民がボランティアの精神で活動を進めていることは成果と言えるが、一方で参加していない住民に目を向けることも重要であり、地域の課題解決に向けた役割を十分果たしているとは言い難い。

評価事務事業名	地域自主組織育成支援事業
---------	--------------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	65 / 100点		
	参考値		
	高 85	低 55	

人口減少が進む地域課題への取り組み良いが、地区住民のより多くが参加し、活動計画の継続や修正について発言できるよう担当課は指導すべきではないか。
1組織1年当たり一律300万円の補助金は、組織の将来を見据えて、検討する必要がある。
自主組織、行政、議会など関係者間で、自主組織の目的の認識に齟齬があり、明確にする必要がある。

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

この事業の目的は、「地域の課題」の解決であるという原点を関係者が確認したうえで、イベント等の地域活性化の取り組みは、そのための一つの手法であるとの認識を共有すべきである。ただし、自主組織設立後、活動の初期段階においては、活性化の取り組みが主軸となることはやむを得ないものである。
町は自主組織の自主財源確保のためとして、町が発注する委託事業のうち受託可能なものは受注するよう推奨しているが、補助金を含めた自主組織の財源について考え方を明示すべきである。
たとえば、自主組織を地区区長会の下に置くなど、町は相互の関係を明確にして自主組織の活動を進めると住民の関心も深まり、参加者の幅も広がるのではないか。
今後、自主組織育成のために町が取り組む必要がある具体的な事項は、評価方法の確立、営利・非営利問わず全収支が把握できるよう収支決算書、活動報告様式の改善、税務・労務等、団体活動に求められるコンプライアンスの徹底が挙げられる。

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

--

6. 委員会の総括

--

評価事務事業名	輝くシルバー交付金事業
---------	-------------

委員会のまとめ

1. 委員会の項目別 評価点

評価項目	評価基準	点数	評価委員数	総点数	総人数	委員会平均点	
(1) 必要性	① きわめて高い	25		95	6	16	
	② 高い	20	3				60
	③ どちらかといえば高い	15	2				30
	④ どちらかといえば低い	10					
	⑤ 低い	5	1				5
	⑥ ない	0					
(2) 公共性	① きわめて高い	25		65	6	11	
	② 高い	20					
	③ どちらかといえば高い	15	3				45
	④ どちらかといえば低い	10	1				10
	⑤ 低い	5	2				10
	⑥ ない	0					
(3) 費用対効果	① きわめて高い	25		80	6	14	
	② 高い	20	1				20
	③ どちらかといえば高い	15	2				30
	④ どちらかといえば低い	10	3				30
	⑤ 低い	5					
	⑥ ない	0					
(4) 成果	① きわめて高い	25		70	6	12	
	② 高い	20	1				20
	③ どちらかといえば高い	15	1				15
	④ どちらかといえば低い	10	3				30
	⑤ 低い	5	1				5
	⑥ ない	0					

合計 53

2. 委員会の項目別評価

評価項目	平均点	委員会評価コメント
(1) 必要性	16	敬老の取り組みとして必要／敬老事業と小地域保健福祉活動をまとめ実施している意義は大きい／商品券配布の事業は適切ではない
(2) 公共性	11	集落を支え、年配者を敬うことは社会的ニーズに適っている／適切な事業だが、実施方法に工夫が必要／支え愛事業で取り組みの差が大きい
(3) 費用対効果	14	最低限の予算で実施されている／商品券配布では効果がない／1000円の単価設定が、目的達成に適切と言える金額か疑問
(4) 成果	12	目標160集落には至っていないが、144集落が実施している／集落により恩恵を受ける高齢者と、全く受けない高齢者があるのは良くない

評価事務事業名	輝くシルバー交付金事業
---------	-------------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	53 / 100点		
	参考値		
	高 75	低 25	

コロナ禍での取り組み状況が今後どう影響していくのか経過を踏まえた判断が必要／最低限の予算で、最低限の事業が実施されている。取り組みがされてない集落もあるので、より理解しやすいよう工夫が必要／制度を活用し、集落で支えあい活動を増やしてほしいが、現状ではそのように機能していない／町民に根付いて来ている、継続されるべき事業／全集落が取り組んでおらず、十分な成果とはいえない

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

シルバー交付金の交付額や事業内容についての町民の詳細なニーズ調査をしてはどうか。

調査の結果、把握したニーズを実現する上で、例えば地域の支え合い活動などについて、集落によっては集落単位で担うことが難しい場合があるときに、地域自主組織や社会福祉協議会などの各種団体と協働しやすいような制度設計や改善を検討できないか。

また、特に敬老事業については、公平平等の観点から、区長の事務処理能力の事情で取り組めないということがないように、申請がなくとも一律に各集落へ支給する仕組みも検討してもらいたい。

さらに、各集落が事業の中身を理解しやすいように、事業概要がわかりやすい説明ツールをつくるなどの創意工夫をお願いしたい。

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

--

6. 委員会の総括

--

評価事務事業名	脳ドック助成事業
---------	----------

委員会のまとめ

1. 委員会の項目別 評価点

評価項目	評価基準	点数	評価委員数	総点数	総人数	委員会平均点	
(1) 必要性	① きわめて高い	25		95	6	16	
	② 高い	20	3				60
	③ どちらかといえば高い	15	1				15
	④ どちらかといえば低い	10	2				20
	⑤ 低い	5					
	⑥ ない	0					
(2) 公共性	① きわめて高い	25		80	6	14	
	② 高い	20	1				20
	③ どちらかといえば高い	15	2				30
	④ どちらかといえば低い	10	3				30
	⑤ 低い	5					
	⑥ ない	0					
(3) 費用対効果	① きわめて高い	25		70	6	12	
	② 高い	20					
	③ どちらかといえば高い	15	3				45
	④ どちらかといえば低い	10	2				20
	⑤ 低い	5	1				5
	⑥ ない	0					
(4) 成果	① きわめて高い	25		55	6	10	
	② 高い	20					
	③ どちらかといえば高い	15					
	④ どちらかといえば低い	10	5				50
	⑤ 低い	5	1				5
	⑥ ない	0					

合計 52

2. 委員会の項目別評価

評価項目	平均点	委員会評価コメント
(1) 必要性	16	脳疾患の早期発見、予防に効果は高い／対象者、頻度に疑問がある／大山町は脳疾患の死亡が多く、必要性は高い
(2) 公共性	14	自己負担の軽減、周知方法の見直しが必要／受診者が減少しており、ニーズを捉えていない／5年に1回では、誰もが公平にサービスを受けられるとは言えない／受診者が少なく、ニーズが見えない／医療費を抑制するには適切
(3) 費用対効果	12	医療費抑制との相関関係に明確な根拠がない／事業目的が明確ではない／事業目的を達成しているとはいえない／助成額が少ないのでは
(4) 成果	10	受診率9%の目標値の達成に至っていない／疾病の早期発見、早期治療につながっていない／事業の健康効果に疑問

評価事務事業名	脳ドック助成事業
---------	----------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	52 / 100点		
	参考値		
	高 65	低 45	

早期発見、予防の観点から、より若い世代へのアプローチも必要／現状では事業目的が明確でなく、受診率は令和1年度7.1%、令和2年度4.8%、令和3年度3.4%であり、9%の目標を達成できていない／公共性や成果に疑問があり、見直しが必要／事業の必要性は高いが受診率が低い。助成額を増やすべき

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

早期発見・予防の観点からすれば、5年に1度という頻度が妥当であるとは考えにくい。
 高血圧や動脈硬化症の方など、特に受診が推奨されている人を含め、希望者は1/4程度の助成額で毎年でも受けられるようにしてはどうか。また、啓発や脳疾患の将来的なリスク診断の観点から、40歳以上でまだ一度も脳ドックを受診したことがない人に対しては、1回限り1/2程度の助成をしてはどうか。
 また、上記の提案にとどまらず、町診療医など有識者の知見やエビデンスを踏まえたうえで、事業の位置づけやあるべき姿について、再度整理をお願いしたい。

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

--

6. 委員会の総括

--

評価事務事業名	夕陽の丘神田運営事業
---------	------------

委員会のまとめ

1. 委員会の項目別 評価点

評価項目	評価基準	点数	評価委員数	総点数	総人数	委員会平均点	
(1) 必要性	① きわめて高い	25	3	75	115	5	23
	② 高い	20	2	40			
	③ どちらかといえば高い	15					
	④ どちらかといえば低い	10					
	⑤ 低い	5					
	⑥ ない	0					
(2) 公共性	① きわめて高い	25	2	50	105	5	21
	② 高い	20	2	40			
	③ どちらかといえば高い	15	1	15			
	④ どちらかといえば低い	10					
	⑤ 低い	5					
	⑥ ない	0					
(3) 費用対効果	① きわめて高い	25	1	25	100	5	20
	② 高い	20	3	60			
	③ どちらかといえば高い	15	1	15			
	④ どちらかといえば低い	10					
	⑤ 低い	5					
	⑥ ない	0					
(4) 成果	① きわめて高い	25	1	25	90	5	18
	② 高い	20	1	20			
	③ どちらかといえば高い	15	3	45			
	④ どちらかといえば低い	10					
	⑤ 低い	5					
	⑥ ない	0					

合計82

2. 委員会の項目別評価

評価項目	平均点	委員会評価コメント
(1) 必要性	23	子供たちにとってサッカー場の活用は、体力増進だけでなく、コミュニケーション能力・自立心・責任感などの向上に役立つ。大山山麓の観光交流拠点であり、大山寺観光にも宿泊客誘引に寄与している。町民の交流拠点としての役割もある。
(2) 公共性	21	宿泊施設の利用を廃止したが、観光拠点として、大山寺にある宿泊施設とも連携している。県のサッカー協会とも連携し、町内サッカー競技者にとって必須な場所となっている。天然芝コートはもとよりトイレを含めた環境整備が必要である。
(3) 費用対効果	20	コロナ禍で宿泊客が減少する中、サッカー等の団体客の誘導ができています。大きな大会では町内飲食店で240食の弁当注文などでの収入があった。キャンプ利用やさらなる宿泊客誘導があることで事業の費用対効果は上がると思われる。
(4) 成果	18	コロナ禍で参加数が低下したものの、それ以前は4万人を超える集客を果たしている。町内スポーツ振興の拠点ともなっており、スポーツ少年団、県内大会二位という結果にも現れている。キャンプへの集客や町内滞在時間の工夫が必要だ。

82/100点

評価事務事業名	夕陽の丘神田運営事業
---------	------------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	82 / 100点		
	参考値		
	高 95	低 70	

近年、コロナ禍で集客数は落ちているが、年間4万人以上の利用者があった。地域的にもスポーツ少年団の拠点となっており、県2位の結果が出たことは環境整備によるところも大きい。
宿泊施設を廃止した後、利用者を大山寺の施設に誘導したり、規模の大きい大会では地元業者の弁当を取り入れたり、周辺のりんご農家との連携もできている。

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

4万人を超える集客や旅館宿泊への誘導、スポーツ振興の面で成果をあげているが、さらなる事業の充実を鑑み、以下の内容を委員会からの意見とする。

- ①平成30年に宿泊事業を廃止し、その時点で指定管理料が約1500万円増加している。現在も宿泊客誘導はしているものの、さらなる囲い込みを行い、町内施設への誘導の徹底を要望する。指定管理料はふるさと応援基金からとなっているが、ランニングコストへの使用は抑えるべきで、収益化を図り減額することを期待する。
- ②現在キャンプ場は、人の少ない穴場的な需要で人気のようなのだが、2,000万円を超える指定管理料を考えると、しっかりと収益化をすることが求められる。
- ③本施設は町内交流拠点としての位置付けも大きい。イベント開催など利用増加の工夫が望まれる。
- ④本施設は公費を入れ、魅力的な施設となってきているが、施設などへの誘導看板が少なく、webなどのPR不足から周知が不十分だと思われる。
- ⑤利用者がより利用しやすいよう、トイレ等の環境整備にも配慮を求める。
- ⑥町内中心部に位置する観光拠点として、点と点を線で結び町内滞在時間が増えるような工夫が求められる。

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

--

6. 委員会の総括

--

評価事務事業名	道路維持管理事業
---------	----------

委員会のまとめ

1. 委員会の項目別 評価点

評価項目	評価基準	点数	評価委員数	総点数	総人数	委員会平均点	
(1) 必要性	① きわめて高い	25	4	100	120	5	24
	② 高い	20	1	20			
	③ どちらかといえば高い	15					
	④ どちらかといえば低い	10					
	⑤ 低い	5					
	⑥ ない	0					
(2) 公共性	① きわめて高い	25	1	25	80	5	16
	② 高い	20	1	20			
	③ どちらかといえば高い	15	2	30			
	④ どちらかといえば低い	10					
	⑤ 低い	5	1	5			
	⑥ ない	0					
(3) 費用対効果	① きわめて高い	25			60	5	12
	② 高い	20	1	20			
	③ どちらかといえば高い	15	1	15			
	④ どちらかといえば低い	10	2	20			
	⑤ 低い	5	1	5			
	⑥ ない	0					
(4) 成果	① きわめて高い	25			65	5	13
	② 高い	20	2	40			
	③ どちらかといえば高い	15	1	15			
	④ どちらかといえば低い	10					
	⑤ 低い	5	2	10			
	⑥ ない	0					

合計65

2. 委員会の項目別評価

評価項目	平均点	委員会評価コメント
(1) 必要性	24	道路維持は橋梁の整備・道路の補修・道路脇の草刈りなどあるが、どれも通勤通学・農業をはじめとする事業に不可欠で、住民の生活に必ず必要なものである。予算との兼ね合いはあるが管理の程度は住民の要望をしっかりと反映されるべきである。
(2) 公共性	16	道路パトロールに加え、住民の要望に応じて道路修繕のスケジュール等組んでおり、住民のニーズを反映しているという点では、公共性が高い。草刈りに関しては住民のニーズをしっかりと反映しているとは言えない。草刈り後の草の始末が行われていないので、改善すべきで、処理場も必要である。
(3) 費用対効果	12	道路修繕に関しては緊急性も高く、パトロールや住民からの要望を反映し、費用対効果の高い事業になっていると思われる。草刈りに関して、現費用内ではフットワーク軽くできているようだが、草の始末など費用が非常にかさみ、バランスの難しい事業となっている。防災の面からもしっかりと予算をつけるべきである。
(4) 成果	13	町道に関して日常的な道路の維持作業は、必要に応じて適切に作業されている。草刈りに関しては、草の後始末や処理場の面でも十分とは言えない。県道や国道に対しても歩道に草がたくさん茂っている箇所が散見されるので、適切な管理を強く要望すべきである。

評価事務事業名	道路維持管理事業
---------	----------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	65 / 100点		
	参考値		
	高 90	低 45	

広い面積を持つ大山町内の道路補修を限無く整備するには、相応の予算とマンパワーが必要、現行の予算では緊急性の高いものは補正で実施し、妥当性がうかがえる。
 草刈りに関しては、住民のニーズを十分に反映しているとは言えない。草刈り作業が十分でない場所が散見される。シートNo3の「必要性」の項目では各委員、高い数字を入れているのに対して、「成果」の評価が低くなっていることから、最低、年2回の草刈りが必要だと思われる。

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

道路パトロールに加え、集落・住民の情報を的確に把握し、緊急性を考慮した作業を望む。そのためには自主組織や集落自治体との連携を的確に行って欲しい。
 草刈りを伴う道路管理では、調査の中で重要な問題が多数あったため、項目にして提案する。

- ①草刈り作業後、刈り取られた草木や土砂がそのままである。特に溝に溜まると大雨で道路破損の恐れがあり、作業内容の統一が必要である。
- ②集落で、道路などを自主的に草刈り実施している箇所がある。草木などの廃棄指定場所を町で設置すべきである。
- ③最低、年2回の草刈りは必要だと思われる。
- ④作業員の高齢化もみられる。人員を短期ではなく、会計年度任用職員としても補充すべきである。
- ⑤国道や県道などの整備も足りない部分があり、県との密な連携を強く要望する。

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

6. 委員会の総括